淀川長治
映画評論家

愛は何ものをも越えて
フィラデルフィア

「羊たちの沈黙」の監督のジョナサン・デミの一九九三年作二時間五分のアメリカ映画。すでに御承知のこれで主役のトム・ハンクスがこの年のアカデミィ主演男優賞をとった。

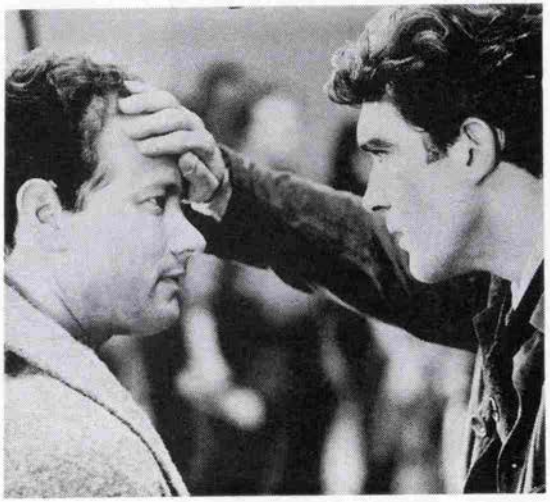
フィラデルフィアの第一級法律会社の若き腕きき社員が突如クビ。理由はエイズをわずらっていることだった。弁護士の彼は会社とたたかった。しかし相手は第一級、そうそうの大会社、びくともせぬ。そこで思いあまってライバルのやり手の弁護士（デンゼル・ワシントン）に助けを求めた。この黒人弁護士も初めエイズを恐れ彼と握手した手をすぐ洗った。しかし次第に彼が、その命のうすれてゆく彼が、哀れになり立ち上って彼のために闘った。しかしその勝利のときには彼は病院で死んでいた。

この映画の注目はエイズそしてホモそしてゲイをかばったというよりも愛することの差別なき美しさをうたった映画。そして大会社の社長（ジェーソン・ロバーツ）がホモを汚いとののしりながら、なみいる多くの人のまえで黒人弁護士に〝あなただって社員の若いひとりを可愛いがっていた……でしょう〟と言われサッと社長の顔がこわばる瞬間を見逃さぬよう。

ストーリーは底が割れ、トム・ハンクスがオスカーをとるのも甘い。これはレイ・ミランドが「失われた週末」でオスカー（主演男優賞）をとったのと同じでこれはアルコール中毒に苦しむ悲惨な男の映画。オスカーはこのような病人演技には、まいってしまうらしい。

それはともかくとしてこの「フィラデルフィア」の面白さはこの題名にある。なぜかくもハッキリと題名をタイトルにしているのかに注意しよう。

ペンシルヴァニア州のフィラデルフィアはニューヨークの西南。独立戦争ではオランダとイギリスとスウェーデンがここを争った。クェカー教徒の土地である。アメリカの国旗はここで一七七六年に作られたのである。ベンジャミン・フランクリンが生れたのもここだ。そして


同性愛で結ばれた二人。トム・ハンクス(左)とアントニオ・バンデラス

フィラディルフィアとはギリシャ語からきた言葉で「友愛の町」を指す。「人間は生れながら自由平等を持つ権利がある」という意味である。

アメリカ人はこの映画のこの都市の名の題名でもうこの映画を嗅ぐにちがいない。アメリカ一のエリートの土地である。日本ならさしずめ麹町（こうじまち）の永田（ながた）町というところか。とにかく東大もワセダもKOもの、そのそこを出た人たちが、ここで重役または社長となって誇っているような町である。そのような人たちにとってホモは動物扱いされかねぬ。エイズはネズミのかかる病気と笑うばかりのエリートのいるところ。アメリカの多くの人は、日本で言うならば東大の教授がエイズにかかったいうがごとき話題をもってこの映画を見にゆくわけである。

主役のトム・ハンクス(左)とデンゼル・ワシントン(右)

もちろん映画はそのような苦笑にあふれた映画ではない。差別するな、おまえだって、そう叫んでいる映画、しかも叫ぶのでなく静かに描く、このエイズをわずらった本人、それとあわせ彼を見守る人たち、それが美しい。

フィラデルフィアといえば一九四〇年作の「ザ・フィラデルフィア・ストーリー」があった。フィリップ・バリィの舞台劇をジョージ・キューカーがその映画化の監督に当り、キャサリン・ヘップバーンとジミィ・ステュアートとケイリー・グランが共演した。この三人の主演者たちでもわかるようこれは富豪のパーティーから始まるソフィスティケイテッド・コメディだった。エリートと第一級富豪族の映画、いうならば「かまくら物語」「ながた町物語」とでもいったドラマ。のちにグレイス・ケリーもこの再映画化に主演した。

さてこんどの映画はエイズにかかった青年の母にジョアン・ウッドワード、さらにメアリー・スティーンバーゲンそして主役の青年と同性愛を結んでいる青年に「欲望の法則」のアントニオ・バンデラスが配役され、この顔ぶれはニューヨークの舞台さながらのきびしい配役だ。しかし群を抜いて立派なのは黒人俳優のデンゼル・ワシントン。ことし四〇歳。「から騒ぎ」「マルコムX」「グローリ」がある。

主役を掴んだトム・ハンクスはことし三十八歳。カリフォルニア生れ。「スプラッシュ」「ビッグ」「プリティ・リーグ」そして一九九二年の「めぐり逢えたら」で注目を受けた。この一年のさきにまさかアカデミー主演男優賞とはびっくりであったであろう。トム・ハンクスその名もおぼえいい。これからが楽しみである。監督のジョナサン・デミは「羊たちの沈黙」で一躍アカデミー監督賞を受けた新人。ことし五〇歳。アメリカ映画のニュー・ホープだ。

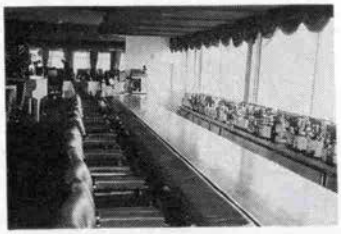
SPECIAL MESSAGE

神戸百店会だより

GOURMET

★カップルでどうぞ

北野クラブのBAR ROOMでは、5月末日までオードブルコースペアセットをご用意。ヴーヴ・クリコシャンパンハーフボトル1本に、オードブル4品がついて2名様で7800円の嬉しいお値段。オードブルはお野菜のテリーヌ庭園仕立て他からお好きなものをチョイス。夕食特選コース（6800円）もある。

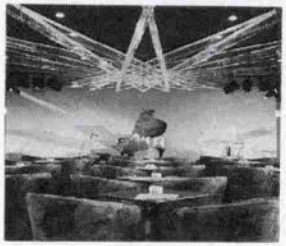


最高の夜景が広がるカウンター

GOURMET

★おしゃべりサキソホーンとお箸でいただくフランス料理

5月16日（月）12時～15時、西神オリエンタルホテル17階スカイラウンジ「エトワール」で、「石坂勇特選料理＆青春プレイバックPART Ⅱ」として、8000円で開催。石坂料理長の特選料理と、尾田悟、秋満義孝奏でるオールディーズジャズ、末広光夫のジャズトークをお楽しみ下さい。



OPEN

★志摩スペイン村に「カフェテリア サルー」開店

UCC上島珈琲は4月22日に開業した志摩スペイン村のテーマパーク「パルケエスパーニャ」内に「CAFETERIA-SALUD!（カフェテリア サルー）」をオープンした。

店舗はスペイン風ピラフのアロス他軽食を楽しめるカフェテリア、街並みを眺めながら挽き立ての泡立ちコーヒーを堪能できるテラス席、アイスクリームデザートがおいしいテイクアウトコーナーの3つから構成されている。

「サルー」はスペイン語で「乾杯」の意味。陽気なカフェを訪れてはいかが。

■三重県志摩郡磯部町坂崎下山952－4
☎05995（7）3417

情熱の国スペインの魅力が満喫できる

GALLERY

★コーヒー・コミュニケーションをテーマに絵画展

4月29日から5月29日迄UCC上島珈琲本社ビル1階（ポートアイランド）で「ヨーロッパ・カフェ絵画展」が開かれている。

作者と主催者によるテープカット

初日の午後3時から出展者の樋口善造、斎藤民雄両画伯と主催の諸岡博熊UCCコーヒー博物館長によるテープカットが行われ、作者から絵の解説を聞くなど語らいの集いがもたれた。

絵をテーマに話の輪が広がる

PEOPLE ＜123＞

●陽気な愉快人

宮林良一さん〈フランス菓子㈱ドンク神戸 神戸第一事業所所長〉

神戸生まれ、神戸育ちのドンク。お膝元神戸地区の運営管理の要職に在り、社員の教育から、メニュー作成まで職域は多岐にわたる。数年前の新入社員が伝票を切る際「この辺りは上様という苗字が多いんですね」と言ったのが忘れられない。趣味は絵本作り。「子どもたち？全然読んでくれないヨ」と豪快に笑いとばす。

OPEN

★田崎真珠三宮センター街東店が4月2日にオープン

特徴は一品ものの豊富さ。素材からデザインしたものばかりで、世界に一つしかないオリジナリティ溢れるジュエリーばかり。

ブライダルダイヤも充実。希少なピンク、イエローダイヤは見るだけで得した気分になれる。

■神戸市中央区三宮町1―8―1―154 サンプラザ1階 ☎078（334）0281 10時半～19時半

ネオ・クラシックを基調にした店内

TOPICS

●丸善よりお知らせ

・現代ヨーロッパ秀作絵画展

イギリスはもとより、日本でも益々脚光を浴びている、アニー・ウイリアムズ。

彼の最新作を始め、サイモン・ブル、ジュディス・レビン等、ベテラン画家の油彩、水彩、プリント約50点を展示。即売も致します。

5月12日(木)～17日(火)

丸善・神戸元町店2Fギャラリーにて

チェリーズ アニー・W

・游墨民・松本碩之展―草野心平、谷川俊太郎の心を描く

奈良県立美術館学芸員のかたわら、書の世界で活躍中の松本氏の作品展。草野心平、谷川俊太郎の詩を独自描写。

5月19日(木)～24日(火)

丸善・神戸元町店2Fギャラリーにて

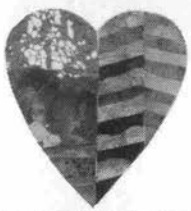
●ゴーフルアルデア北野よりお知らせ

・三上祥子さんによる「パメラ奥さんのコラージュ教室―森のアクセサリーづくり」

会費 2500円

要申込み

☎333―5555



・写生会「港を描く」

5月27日(金)

場所 神戸港

会費 2000円

要申込み ☎333―5555

●ポートピアホテル ロビーコンサート

5月14日(土)、15日(日)

17時～17時半、18時～18時半

本館1階メインロビー 無料

出演はマイアミ大学ジャズヴォーカル・アンサンブルI。クラシック、ブルース、現代音楽と、幅広い演奏。

●ホテルゴーフルリッツ「ファッションライブラリー」

第11回世紀末セミナー

―江戸川乱歩と世紀末

講師 堀江珠喜（大阪府立大学助教授）

6月4日(土) 18時半～20時

2000円（コーヒー付）

定員65名

15階アンダルシアの間

要申込み ☎303―5555

PRESENT CORNER

●丸善から「ミックスドキャッツ」他、レターセットをプレゼント

TOPICSでご紹介した丸善より、猫の絵柄が可愛いレターセット3種類を1組にして15名様にプレゼントします。どしどしご応募下さい。

♥応募方法●葉書に住所、氏名、電話番号、希望する商品名を明記の上、神戸市中央区東町113―1大神ビル9F「月刊神戸っ子」神戸百店会プレゼント係までご応募下さい。5月末日消印まで有効です。当選者には神戸っ子から当選葉書を発送、葉書を持って神戸っ子まで、プレゼントを受け取りにお越し下さい。

ポケット ジャーナル

★半どんの会文化賞

3月26日(土)、県民会館で、半どんの会文化賞贈呈式が行われた。

受賞者は現代芸術賞、文学部門に詩のなかけんじ、短歌の中村美津子、俳句の千原草之、美術部門に洋画の岩見健二、書の園部琴城、陶芸の市野信水、文化功労賞に俳句の赤尾恵以、短歌の尾上田鶴子、短歌の平井智恵子、日本画の北井真生洋画の小巻康治、県民感謝賞に地域の西村勝、報道の西條遊児、短歌の福井勇、音楽の野村純弘、短歌の木村満二、文芸評論の森本穫、詩の岩崎風子、詩の住吉千代美、短歌の楠田立身、花絵の山本敏雄、墨象の牛丸好一、ちぎり絵の田中悠子、舞踊の神崎リウ、音楽の山口芳典、芸術奨励賞に箏曲の松尾菊寿（敬称略）。

受賞者たちにはお祝いにかけつけた人々からたくさんの花束が贈られ、会場内は喜びに包まれた。

受賞者の田中悠子さん、山本敏雄さん、赤尾恵以さん(左より)

★目指せ！Jリーグ！

Jリーグがこれだけ盛り上がっているにもかかわらず、我らが愛する神戸にはJリーグチームはおろか、核となるサッカーチームさえなかったのだが、3月30日、JFLの川崎製鉄サッカー部（岡山県・倉敷市）が来シーズンより神戸に移転することが神戸市の発表によって明らかになった。

オーレ！KOBE 神戸にプロサッカーチームをつくる市民の会では24万人もの署名を集め、神戸市長に提出、チーム誘致の機運を盛り上げた。3月末には神戸市サッカー協会との共催で、'82W杯でブラジルの主将としてジーコやファルカンらと共に活躍したソクラテスを招き、サッカー教室を開くなど、積極的に活動。神戸にも大きなサッカームーブメントが起こりそう！

ソクラテスと未来のJリーガー?!たち

★小錦関の浴衣

漫画の高橋孟さんが、大阪場所直前の高砂部屋の稽古場を見学して驚いたそうだ。「映像で見るのとえらい違いや…」という。お寺の仮説プレハブ。竹刀を持った親方の前で、幕下達が関取の小錦や水戸泉に稽古をつけてもらっている。汗だくの全身は砂だらけ、へとへとになっていても容赦しない。つけてくれる稽古が

★誕生日ありがとう運動

私の出会った宝子たち（16）
―笑顔がトレードマークです―

Mさん

いつもニコニコと人あたりのいいMさんは、三十一歳。

学園には家から自転車で通っている。途中で出会うと、ニコッと笑って「おはよう」と片手を上げる。どんな仕事もこつこつと取り組んでいる姿は、他の園生の励みにもなっている。

午後からは、近隣の保育園に食器の洗い物の実習にでかけている。家でもよくお手伝いしているらしく、週に一回の調理実習では、サイコロ切りや、拍木子切りなども、説明しなくてもひとりでメニューによって切りわけている。

そんなMさんでも年に一回程、顔をまっ赤にして怒ることがある。普段のMさんからは想像もできないけれど、怒り出すと大声をあげて泣きながら相手の人をいつまでも追いかける。

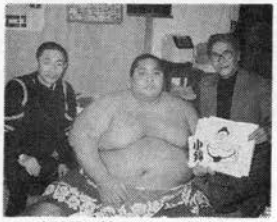
きっかけはいつも些細なことで、ふざけていてそれがエスカレートして本気になってしまうのである。

職員が仲裁に入って感情がおさまるとあとはケロッとして、またいつものような笑顔が戻る。

そう、Mさん、やっぱりあなたには笑顔が一番似合ってる。（N）

誕生日ありがとう運動本部
〒651 神戸市中央区御幸通八・一一六
神戸国際会館一階郵便局の隣
TEL・FAX
〇七八―二二一―二一一四

多いほど名誉なことで「見込がある証拠らしい」としきりに感心、「小錦関も稽古熱心なのに驚いた」という。


小錦関と神戸のター坊(左)
高橋孟さん(右)

小錦関に紹介された孟さんは茶目っ気たっぷりな小錦関が好きになったそうで「あんた漫画家だったら最肩筋にあげる浴衣の似顔を描いてくれ」といわれ大喜び。ひょんなところで漫画の「谷町筋」になったという。

★〝足で書いた〟英文日本旅行ガイドの決定版

神戸ペルシャ美術館長のジェイ・グラックさん一家が英文の日本旅行ガイドブック「ジャパン・インサイドアウト」を発刊し、話題を呼んでいる。

グラックさんは芦屋市在住で、かつてトラベルライターとして活躍したほどの大の旅行好き。'63年には同書の初版を発行、当時ベストセラーとなった。改訂版では妻のスミさんを始め家族の協力を得て追加取材を行いさらに内容を充実させた。同書では約50の都市とその歴史、風俗等日本のあらゆる面をイラスト入りでわかりやすく解説、全国の祭りもカレンダーとして盛り込まれている。

グラックさん一家

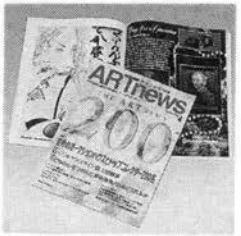
2900円。欧米と日本の主な書店、ホテルで販売されている。お問い合わせはハガキで左記のグラックさん方まで。

■〒659 芦屋市山芦屋町13—5

★世界のアートが楽しめる月刊誌が創刊

1902年にニューヨークで生れた美術誌「アートニュース」日本版がこのほど創刊され、同朋社出版より販売されている。

美術を難しく捉えるのではなく、音楽や映画のように気楽にアートを楽しんでもらうことを編集方針に置いた、世界のアートをニュースで読む日本初のマンスリー・マガジン。世界主要51都市の特派員によるリポートや世界各国の展覧会や論評など、ホットなニュースを満載して届けてくれる。写真をふんだんに使ったヴィジュアルな誌面はアートに関心のない者でも十分楽しめる。翻訳記事が大半を占めるが、これからは日本版独自の記事を増やしていく予定。6月号は5月10日発売。1620円。



アジアの情報にも力を入れている

★女性トッププレイヤーによる華やかで熱い闘い

今年で5回目となる「サントリーレディースオープンゴルフトーナメント'94」が6月9日より4日間、関西の名門コース〝有馬ロイヤルゴルフクラブ〟にてトッププレイヤーを迎えて華やかに開催される。「神戸っ子」では同大会の通し券をペアで10組の方にプレゼントします。左記の要領で御応募下さい。

■ペアチケット応募方法
葉書に住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、左記へ。締切は5月28日(土)。
〒650 神戸市中央区東町113—1大神ビル9F 月刊神戸っ子「ゴルフチケットプレゼント」係

★ひょうご舞台芸術が初のミュージカルに挑戦

ひょうご舞台芸術第7回公演ミュージカル「7DAYS(セブン・デイズ)」の制作発表が4月4日、新神戸オリエンタルホテルで行われた。

左より萩原流行さん、水谷良重さん
秋元康さん

あの秋元康さんが企画。一週間後に大地震が襲うという死に隣接した状況のなか、人はそれぞれ何に価値を置いて生きていくのかを鋭く問う少し恐いストーリー。主演の夫婦を演じるのは水谷良重さんと、萩原流行さん。現代的テーマとミュージカル。一見意外な取り合わせだけに、どんなミ

ュージカルに仕上がるのか何とも楽しみである。

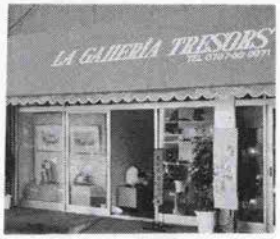
◇日時　6月2日(木)～13日(月)
◇会場　新神戸オリエンタル劇場
◇入場料　S席／前売五千円　当日五千五百円　A席／前売三千五百円　当日四千円
■チケットの問い合わせ　新神戸オリエンタル劇場チケットセンター
☎078－291－9999

★「今、なぜか流行のガラス展」開催

関西で活躍中の第一線のガラスアーティスト13人が集まって繰り広げられるガラス展が5月20日よりギャラリートレドールにて開かれる。

今ガラスは従来の季節感、すなわち夏のものという既成概念から脱却し、新しい表情、質感やにほいを独自に持ち出し、別の顔を表わしてきている。カラフルにでも、ストイックにも、ユーモアのある暖かさにもそして従来の持ち味である透明感、清潔さなど、多様な表現が出来る様になってきたのだ。今回のガラス展で展示されるのは、それぞれの作り手が思い思いの感性で存分に楽しみながら作ったものばかり。器、あかり、オブジェ、アクセサリーなどなど、どれもこれもきっとハッと、フッと、ワッと喜こんでもらえるはず。

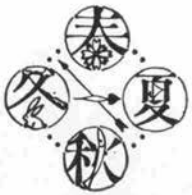
豊かで優しい気持ちになれるものとの出会いが人と人との出会いと重なってくる。そんなガラスが今、おもしろい!!



ギャラリー「トレドール」

◇日時　5月20日(金)～6月1日(水)　11時～18時半　木曜日休
◇会場　ギャラリー「トレドール」(宝塚市売布3－11－18／阪急売布神社駅から2分)
■お問い合わせ　杉原登美
☎0797－85－0971

花時計



★兵庫大佛ありがたや節

兵庫の能福寺に兵庫大佛が鎮座開眼供養が行われて早くも3周年、この能福寺で〝第4回目〟の「兵庫大佛まつり」が行われ、歴史の道として親しまれる「兵庫津の道」が参詣の人たちで賑わい地元の人たちが大佛つあんに芸能を奉納する例年の5月9日、10日の両日。

愉快なトピックスが生まれた。兵庫大佛のテーマソングともいうべき、〝兵庫大佛ありがたや節〟が生まれ陽の目を見た。作詞は本誌編集長の小泉美喜子、作曲は小野瀬晃一、唄は神戸のター坊、そして振付は若柳吉金吾と地元で固めている。

曲柄は、阿波おどり風とサンバ風がミックスしていて、軽快そのもの。歌詞はこんな風――

(合唱)ありがたや　ありがたや　兵庫大佛ありがたや

兵庫津の道・ひとりで詣りゃ　美男におわす大佛つあん　一眼逢いたや拝みたや　一願成就恋成就　サテ！　ありがたや　ありがたや　兵庫大佛　ありがたや

と言った調子。今年の〝兵庫大佛まつり〟ではカラオケ大会や、この「兵庫大佛ありがたや節」の新作発表が行われて賑わうことになる。(Y・Y)

●KOBE POST

★5月12日に、ホテルオークラ神戸1F平安の間において、田崎真珠株式会社(代表取締役田崎俊作)が、創立40周年の謝恩レセプション開催。

★5月28日(土)午後1時より、神戸ポートピアホテル南館において財団法人兵庫アイバンク(理事長・有澤武)が発足2周年を迎え、献眼寓志家合同慰霊祭と創立記念式典を催されます。

★日本郵船株式会社神戸支店(安中琢平支店長)が〒650神戸市中央区海岸通1丁目1番1号神戸郵船ビル(078)332ダイヤルイン総務課9710～9714に移転。六甲事務所／〒658神戸市東灘区向洋町東4丁目25番郵船ターミナルビル☎078(857)ダイヤルイン／オペレーションチーム7500～7509コンテナチーム7510～7516情報運用課752を新設。

★㈱博報堂(〒101東京都千代田区神田錦町3－22)代表取締役磯逸律男会長・代表取締役社長東海林隆氏の就任披露が5月27日ホテルニューオータニ大阪「鳳凰の間」で開催されます。

★6月1日午後6時より、社団法人日本真珠振興会(田崎俊作会長)のパールフェスタ'94「パールパーティ」が、神戸ポートピアホテル大輪田の間で開催され、パールプリンセス・パールデザインコンテスト、パールデイキャンペーンを実施。

★6月4日ポートピアホテル南館1F大輪田の間において、中内力氏次男仁様と、赤田實氏長女知子様が結婚式を。おめでとう！

★4月28日(木)午後6時30分よりアーチスト嶋本昭三氏の出版記念パーティが。毎日新聞社刊「芸術とは人を驚かせることである」。

★女優・三林京子さんと、文楽人形遣い・吉田簑太郎師姉弟が、オフィス㈱「三りん舎」設立。〒160東京都渋谷区神宮前4－15－15原宿ジートルンク301号☎03(3440)5995FAX5994

びっと・いん

★「そうざいや地球健康家族」1号店岡本にオープン

これからのそうざい店に何ができるかを考え、「地球」「健康」「家族」をテーマに、㈱ロック・フィールドが開いたお店。3／27オープン。

どれもおいしそうで迷ってしまう

揚げたて、焼きたて、煮立てのアツアツなど、その場で作られたおそうざいが約80品。からだにやさしい味付けをと、低塩低糖低カロリーをポイントにあっさり味に調理されているので、毎日食べても飽きないおいしさ。好きなものを好きなだけ自分で容器に入れて買い求めるスタイルだが、容器の再利用、持ち込みなどを歓迎。その際もらえるカードを集めると、商品と交換してもらえるが、これは「資源保護にご協力頂いた感謝の気持ち」とのこと。

予約注文もできる。お昼には日替り弁当もある。

■お昼の献立10時半〜、夕べの献立3時半〜、閉店21時。JR摂津本山駅山側1分。☎431—8882

★猫の手も借りたい店 "Cat hand"

北野坂は、いろり屋の東向いにあるリンズギャラリーの2階に、猫の手も借りたいと名附けた"Cat hand"がある。朝10時〜午後5時迄はカフェ。午後6時〜夜中の2時迄はバーに。

ホテルオークラ神戸の34F宴会係だった永田幸雄さんと、オリエンタルホテルに勤める稜子さんは京町で出会って4年前に結婚。昨年10月この店をオープン。

アメリカンショートヘアの猫を飼う猫好き夫妻の店には、いつの間にやら猫コレクションがいっぱい。

猫好きな人にはたまらないお店

稜子さんの描いた猫の絵もとても楽しい。ネコ珈琲500円、バカラのロックグラスで飲むウィスキー、ビール生700円、カクテル800円、4人掛けの椅子席にチャージ600円。猫の気まぐれで火曜休日、水曜喫茶休

北野のお茶の間のような雰囲気だニャン！

■中央区北野町二丁目7—18（リンズギャラリー2F）☎078—222—3949

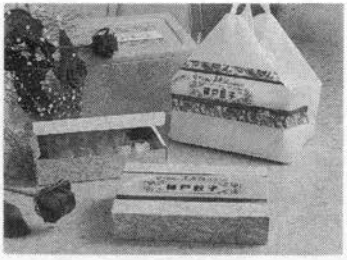
★一度はお試しあれ、萬寿殿の手作り神戸餃子。

萬寿殿は神戸に誕生して25年。グルメ時代に、消費者のニーズから生まれたのが"神戸餃子"。

厳選された材料を独自の味付けで調理。上質の脱臭ニンニク使用で、気になるニオイの心配なし。

味噌味、しょう油味のたれ付き。好みのたれで頂ける。萬寿殿には怒られるかもしれないが、私は2種類のたれをミックスするのがお気に入り。

試みに冷凍保存をした。家で作ったものは焼く際、フライパンに餃子がくっつくが、その心配も全くなし。働く主婦にとって、作りおきならぬ、買いおきには餃子は大きな味方。



気になるお値段の方は、8人前80個で4000円。12人前120個で6000円。—土産用、贈答用に地方発送もあり。

嬉しい神戸新名物の登場だ。

神戸と音楽

河内　厚郎〈文芸・演劇評論家〉　写真／池田　年夫

さくら銀行の敷地内にある、宮城道雄生誕の碑。『春の海』のメロディーが流れる。

平清盛の甥で、須磨寺の「青葉の笛」の故事で名高い平敦盛の兄にあたる平経正は、琵琶の名手として知られた。

神戸音楽散歩は、まず経正ゆかりの兵庫区島上町「琵琶塚」からスタートしよう。近世初頭に三味線が入ってくるまで、琵琶が代表的な弦楽器であった。須磨の村上帝社は、琵琶の奥義を極めようと入唐を思い立った藤原師長の前に、村上天皇の霊が現われて名器「獅子丸」を授けたという、能の「絃上」の舞台。長田に住む筑前琵琶の総師範、芝田旭堂さんの長女、元・宝塚娘役スターの上原まりさんが平家琵琶の奏者となり、各地でコンサートをひらいている。

結論から言わせてもらうなら、神戸は「日本的」な街である。音楽からもそれは見てとれる。須磨寺所伝の一絃琴は「須磨琴」とよばれるが、「春の海」の作曲者で「現代邦楽の父」といわれる箏曲家の宮城道雄の生誕百年を記念して、生誕の地神戸では、誕生日の四月七日を中心に、全国から邦楽関係者が参加して盛大に記念行事が行われた。宮城道雄は、江戸時代からの邦楽がもっていた声楽重視、旋律本位といった特長をいかしつつ、西洋音楽のメソッドを摂り入れ、国民的人気を博した音楽家である。

さくら銀行の敷地内にある生誕の碑の近くに、音楽ファン待望のコンサートホール「神戸朝日ホール」が開場した。ながく洋画専門のロードショー館「神戸朝日会

よみがえった神戸朝日ビルディング（旧朝日会館）。低層部は旧ビルのイメージを残し、ノスタルジックな風格が漂う。

館」が生まれ変わったのである。このビルは昭和九年、旧外国人居留地の北端部に建てられた。カーブする道路に面した地形をいかして、真円の四分の一の扇形という、ユニークなフォルム。北から西へ穏やかにカーブする外壁と、それを支えるイオニア式の柱列が独特で、建て替え計画が発表されると、すぐに神戸市民から保存を望む声が起きた。設計施工を担当した竹中工務店は、旧ビルの面影をそっくり残す低層部（地下二階～地上六階）と、高層部（七階～二十六階）との融合に取り組み、低層部の外壁には旧ビルと同じテラコッタを採用した。

客席数は、五百五。ホールのデザインテーマは「火の鳥」で、壁や天井に鳥の羽のような重なりをもたせたのも、フェニックスのように「再生」を意識しているわけだ。客席シートは神戸らしく、海を表す、濃いブルー。舞台と客席がほぼ同じぐらいの広さで、舞台の間口は二十・五メートル、奥行は十メートルもある。ここでどんな演奏会がひらかれることになるのか。企画力が問われる。古い部分を保存再生した同ホールの性格から考えて、また大人のムードを漂わせる旧居留地界隈のカラーからしても、やはり和洋のクラシックが向いていると思う。本誌四月号に、バイオリニストで、前の神戸室内合奏団のコンサートマスターだった北浦洋子さんが、このホールで演奏してみたいと語っている。

三月二十六日、芦屋ルナホールで、貴志康一のバイオリン曲の数々が北浦洋子さんによって演奏された。神戸には朝比奈隆や延原武春といった関西洋楽界のリーダーが住んでいるが、芦屋ゆかりの天才作曲家、貴志康一（一九〇九～三七）を抜きに関西の音楽史は語れない。

話は大正時代にさかのぼる。月の美しい夜、芦屋の浜辺を散歩していた神戸在住のロシア人音楽家、ウエックスラーは思わず足を止めた。弦の響きに誘われるように、音色が流れてくる白い洋館の外階段をつたってベランダにのぼると、バイオリンを弾く少年の姿が――この少年こそ、日本人として初めてベルリン・フィルハーモニーを指揮し、天才音楽家とうたわれながら二十八歳の

ベルリン・フィルを指揮する貴志康一。

若さで夭折した貴志康一だった。

康一の父は甲南女子校の創設にかかわったブルジョアで、茶道や禅道の世界でも著名だった。その長男として恵まれた環境に育った康一は、甲南小学校に在学中からバイオリンを習い始めた。ウェックスラーの指導を受けて、甲南高校を二年で中退、十七歳でジュネーブの国立音楽学校に入学。首席（次席という説もある）で卒業した後、当時六万円のストラディバリウスを抱えて帰国。

二十一歳で三たび渡欧、巨匠フルトベングラーに師事してベルリン・フィルを指揮。作曲にも意欲的に取り組んで、日本情緒あふれる歌曲「天の原」「赤いかんざし」といった作品を発表した。二十六歳で帰国し、翌年、ベートーベンの第九を暗譜で演奏して音楽界のスーパー・スターとなったが、ウィルヘルム・ケンプとの共演を最後に盲腸炎から腹膜炎を併発し、翌三七年十一月十七日、他界した。そのまぶしいばかりの業績も、日中戦争から第二次世界大戦へと続く歴史の荒波にのまれかけていたが、ストックホルムでの湯川秀樹博士のノーベル賞受賞式で、会場に貴志康一のバイオリン曲「竹取物語」が流れたのである。

その後、遺族が楽譜や手紙など遺品を母校の甲南高校に寄贈し「貴志康一記念室」が設けられた。七八年に同校の新講堂完成を記念して開いた演奏会で、そのバイオリン協奏曲が、生前に親交のあった朝比奈隆さんの指揮、辻久子（宝塚在住）さんのバイオリンでよみがえり、レコードとなった。また交響曲「仏陀」なども指揮者の小松一彦さんらによって紹介され、CDにもなっている。日本的叙情を西洋音楽にいかしたその音楽は、日本と西洋との融合という意味で、宮城道雄と共通の性格をもっている。

戦前、宝塚が全国一のピアノ普及率を誇ったように、神戸・阪神間は洋楽が早くから根づいた土地柄であり、ベガホールなど全国的に名高いホールが多い。しかし今、何といっても話題の中心は、関西オペラの殿堂、尼崎のアルカイックホールと、オーストラリア・シドニー

もとは前方後円式の古墳、その形から琵琶塚と呼ばれた。『平家物語』にみえる琵琶の名人、平経正に結びつけて、琵琶塚つまり経正の塚といわれるようになったことは、一六八〇年『福原びんかがみ』に記されている。明治三五年、有志が塚の周辺に大石を積んだ上に大きな自然石に『琵琶塚』と彫って建てたが、大正一二年、道路拡張の時清盛塚とともに現・兵庫区島上町に移転した。

北野にすっかり定着した秋のイベント『神戸ジャズストリート』。写真右は神戸アルバトロスで歌う、滝えり子さん。

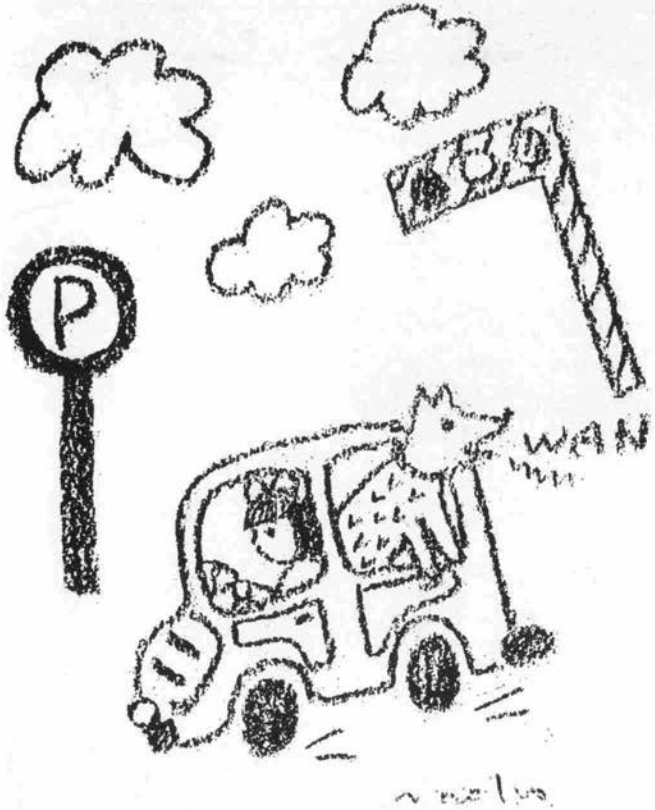
のオペラハウスとの姉妹ホール提携だ。シドニー湾のほとりに建つオペラハウスは、ヨットの帆をイメージした大屋根で知られ、二千六百席のコンサートホール、千五百席のオペラシアターなど大小五つのホール、そして専属のオーケストラ、オペラ団、バレエ団をそなえている。

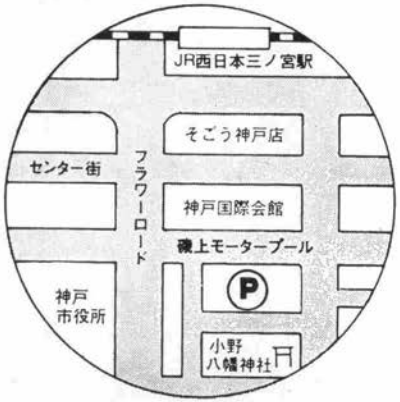
対するアルカイックホールは、関西歌劇団と関西二期会が本拠地とし、小澤征爾氏が定期的にオペラ公演を行なってきた。今後、職員や技術者を相互派遣してノウハウを交換しあうほか、尼崎ゆかりの江戸時代の劇作家、近松門左衛門の作品を共同オペラ化することも検討中という。いくら西洋オペラを真似て演じたところで、それは絶対に日本人の芸術とはならない。「近松」を看板にかかげるアルカイックホールの戦略は賢明であろう。伊丹にも民族音楽の専門ホール、アイフォニックホールがある。貴志康一や宮城道雄のように、日本の風土に根ざした音楽が今後は求められてくるに違いない。

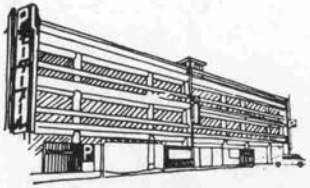
また神戸といえば、日本のジャズ発祥地でもある。大正の末、宝塚少女歌劇団でバイオリンを弾いていた井田一郎が、ジャズ風の演奏を試みて同歌劇団を退団、翌年四月にジャズバンドを旗揚げした。それがわが国初のジャズバンドで、その後も村上一徳とサザン・クロス・カレッジアンズや、右近雅夫とオリジナル・ディキシィーランド・ハートウォーマーズなどが活躍。戦後はジャズ喫茶の登場、大規模なコンサート、ルイ・アームストロングなど大物スターの来日等によって、神戸にジャズが根をおろしていった。グランドピアノをスタンドがわりにして酒を楽しむ「キーボード・カクテル」というスタイルも神戸で誕生したらしい。村上春樹も神戸高校時代、国際会館でアートブレイキーを聞いたときの衝撃を語っている。（最近まで旧甲子園ホテルでは全日本デキシーランドジャズフェスティバルが毎年ひらかれていた）

最後に、神戸は、今や日本文化の一つの象徴であるカラオケ発祥の地でもあるということを記しておこう。

ビジネスに!
ショッピングに!
ご利用ください







磯上モータープール
(神戸国際会館前) TEL (078) 251-2662 (8：00A.M.～11：00P.M.)

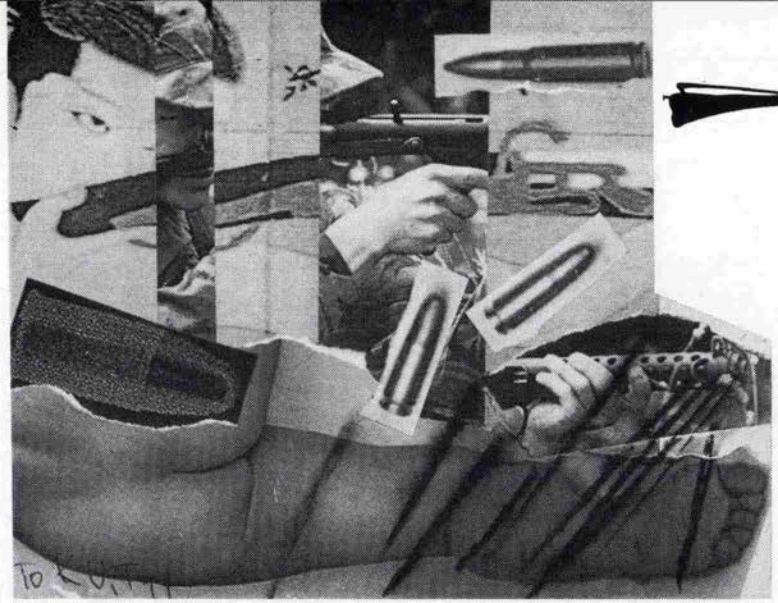
●収容台数 350台
●月極駐車可
●年中無休

連載小説〈第5回〉 第18回神戸文学賞受賞

駝鳥落ち

——慶長五年九月十五日——

楽 ミュウ
コラージュ／田中 徳喜



4 子の刻

それから短い夢をみた。

何百、何千という兵士が、寝ているさなえの傍らを、屋敷の中を通り抜けて、急ぎ足で行進していく。鎧の擦れる音がする。さなえは起き上がろうとするが、あがいても、どうしても体が動かない。

そんな夢だった。ほんの短い眠りだったが、じっとり汗をかいていた。

胸騒ぎがして、起き上がった。雨の音がした。耳を澄ますと、気のせいか地鳴りのような音が聞こえた。

夜明けまではまだ、かなり間があるはずだった。

さなえは部屋を出て、土間におりた。明かりを灯し、手早く飯を炊いた。炊きたての飯を、熱さを我慢して握った。

握り飯ができあがった時、勝手口の戸を叩く者がいた。

「だれ？」

「為助や」

さなえは、急いで戸を開けた。

「戦やで」

蓑を着けた為助が、戸を開けたとたんに言った。

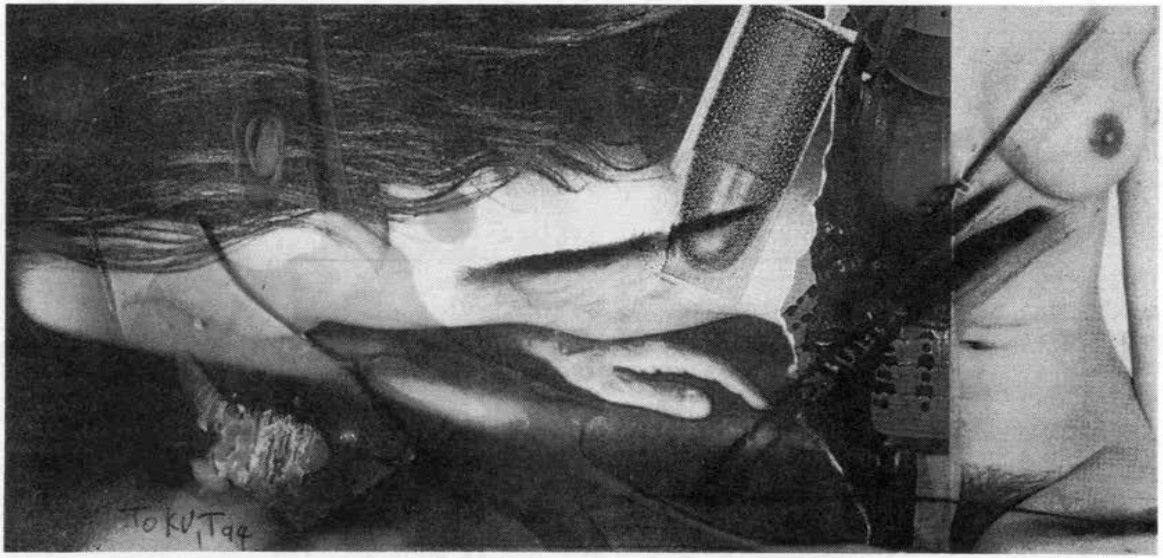
「やっぱり、そう」

さなえが握り飯を指さすと、為助は感心したように頷

いた。そして、蓑をぬぎながら聞いた。
「おはなちゃんは？　おるんか？」
「まだ寝てる。それより」
さなえは戸を閉めて、為助と向かい合って立ち、声をひそめた。
「うちなあ、」
「知ってる。おまつさんから聞いた」
「でも、旦那さまの子かもしれん」
「うん」
為助は表情を変えなかった。さなえは年下で、だらしない為助が、急に男になったような気がした。
「戦のあいだに、この村を出よう。とりあえず河内国まで行こ。あとは、どうにでもなるやろ。いや、どうにかする。行けるか？」
さなえは為助を見た。
いくら撫でつけても、思うとおりにならなかった為助の髪は、雨に濡れて、おとなしく頭に張り付いていた。雨の粒が盛り上がった頬を避けて、こめかみから顎へとつたって落ちた。
さなえは額に、瞬間、浅い皺を寄せた。
それから、唇をとがらせた。
「行く」
蓑を持ったまま、為助はさなえを抱きすくめた。さなえの着物がいっぺんに濡れた。
「冷たいな」
「かまへんやん」
「はなを起こさなあかん」
「そやな」
為助は腕の力をゆるめた。さなえは笑いながら、握り飯を取って、為助の手のひらにのせた。為助は、かぶりついた。
突然、また勝手口の戸を叩く音がした。
外から、さなえを大声でよんだ。聞き覚えのある声だった。市右衛門らしかった。だがそうとは思えないほど、太く大きな、切羽詰まった声だった。
どこかに隠れようとする為助に、ここにいて欲しいと小声で言った。ひとりで迎えるのが、不安だった。
伏し目がちに戸を開けた。
「さなえ」
市右衛門は倒れかかるように、入ってきた。鎧はつけていなかった。着物の右肩のあたりが破れて、下に布を巻き付けているのが見えた。そこから血が滲んでいる。
「怪我を？」
「ちょこっとな」
さなえは市右衛門の腰に、片手をまわした。すると市右衛門は、すんなりもたれかかってきた。こんなことは初めてだと、さなえは思った。
「為助さんが、心配してきてくれて」
「そうか」
為助は土間の上に、座りこんでいた。
市右衛門は、土間から一段高くなった板敷きに腰掛けた。どす黒い顔色をしていた。
「じきに、出ていかねばならん」
さなえは市右衛門の前に、両膝をついてしゃがんだ。
「その傷で、戦でございますか」
さなえは、一緒に逃げようと決めた相手、為助を見た。為助は市右衛門から見えないように、竈のかげで、横を向いて握り飯を食べていた。
「この傷では、足軽の指揮はできん。そんやで殿にお願いして、松尾山の小早川秀秋殿のところへ行く役目をいただいた。小早川殿は、いまは敵じゃが、こちらについてくださるかもしれんお方じゃ。小早川殿の陣営におもむいて、それを見とどけるという大切なお役目じゃ」
「おひとりで？」
「いや、違うが…」
もし小早川秀秋が、こちらの意にそわぬ行動をとれば、自分が、火縄銃で秀秋を撃つつもりだと市右衛門は言った。

さなえは目を見開き、挑むように、市右衛門のほうへ上体を傾けた。
「さいわい怪我をしたのは右肩。銃を支えるのは左だから、一発ぐらいは撃てる」
（旦那さまが、死ぬ…）
さなえは唇をかんだ。
市右衛門は微笑んだ。
「松尾山へゆく前にどうしても、言っておかねばならんことがあってのう」
市右衛門はさなえの髪をなぜ、頬に触れた。傷のせいで熱があるのか、冷たいはずの市右衛門の手は暖かかった。
「わい、帰ります」
為助が深々と頭を下げてから、立とうとした。
「聞いてくれはしまいか」
市右衛門は為助のほうへ、手を伸ばした。為助はまた座り直した。
「わしは長いこと、さなえ、お前をだましていた。村人の口も封じ込めてきた。わしは、お前以外に妻を娶ったことはなかったのじゃ」
為助とさなえは同時に、市右衛門を見げた。市右衛門は、独り身でとおすつもりだったと、告げた。
「望めば、別の村ででも女を探すことはできたが、わしはしなかった。お前は、お前のほうから、この村へきた。初めて見て気にいった。お前はわしの昔を、まったく知らん。鉄砲の縁もある。やりなおせるかもしれんと思ってのう」
さなえは吸いつくように、市右衛門を見た。市右衛門は、高い所から遠くを見下ろすような目をしていた。幅のせまい小さな鼻孔から、時おり漏らす息の音は震えていた。
「若い頃、わしは過ちから人を切ったことがある。空き家になっている寺があるだろう。あそこにいた僧侶だ…」
「えっ」
さなえは俯いた。信じられなかった。
市右衛門はつい先刻、はなが話していたのと、そっくり同じことを語った。あれは作り話ではなかったのだ。しかも、はなが言っていた若武者というのは、市右衛門だった。
聞いているうちに、さなえは目眩がしてきた。倒れまいと、背筋に力をいれた。
「あれから、わしは女を遠ざけてきた。わしはお前をどうしてやったらいいのか、やさしゅうしてやろうと思っていながら、どうにもできんかった。お前がいながら、駆け落ちしようと決めていた女の死に顔ばかり、思い出してしもうて。この歳になっても。すまん」
俯いたまま、さなえは何も言えなかった。歯痒かった。
なぜ、もっとはやく打ち明けてくれなかったのか。市右衛門と暮らした二年が、瞬時に空白の、意味のない年月にすりかえられたような気がしていた。
市右衛門はそっと立って、戸口に近づいた。
「あっ、あの旦那さま」
さなえが立ち上がろうとすると、市右衛門は動くなと怒鳴った。その強い調子の怒鳴り声が、腹の子のことを言いかけていた、さなえの唇が動くのを止めた。
「黒野城へは行かなくていい。わしはもう帰らんと思ってくれ。いいな」
そして為助の前で立ち止まり、よろしく頼むと言って頭を下げた。
戸を開け放して、市右衛門は出ていった。
雨足は強くなっていた。外には、炎の小さくなった松明を大事そうに持った男が、ずぶ濡れになって待っていた。
痩せて、目だけが大きな男だった。市右衛門は笠をかぶってから、西に向けて急ぎ足で歩きだした。待っていた男は、うしろからついていった。

市右衛門が行ってしまうと、さなえは思いついて、屋敷の奥へ入り、急いではなを起こした。
「もう朝でございますか…」
だるそうに、はなは上半身を起こした。
「なあ、はな、二十年前、寺のおかみさんと若武者が好きおうてて、もしかしたら駆け落ちするかもしれんて、村の人ら、みんな、知ってたんちゃうか？」
はなは、さなえが何を言っているのかわからないらしく、きょとんとしていた。
「うちのことも知ってるんやろ。知ってるんやろ」
「……」
「婆さまから、うちのこと聞いたやろ」
さなえははなの二の腕を両手で持って、体を揺らしながら聞いた。
はなは目をこすり、あくびをした。
「為助さんと奥さんのことですか？」
はなは言っておいて、自分が言ったことに驚いて顔を手で覆った。
「わたしは、婆さまから聞いたばっかりで…」
はなは、がっしりした腰をひねって、さなえから逃げようとした。
その様子を見て、さなえは外にとび出した。
西の方角に、まだ松明のひかりはあった。
ひかりに向かって走った。駆けながら、強い雨に負けないくらい、激しく泣きじゃくった。さなえのなかに、長いあいだ溜まっていた涙が噴き上げた。
市右衛門は為助とのことを、知っていた。きっと随分まえから。そう思うと涙がとまらなかった。市右衛門は責めもせず、火縄銃で殺しもしなかった。大切に思ってくれていた。
許してくれる市右衛門に、本当は心の奥で甘えていた。そういう自分自身に、さなえは気づいた。
夜の闇と雨と涙とで、何も見えないまま、がむしゃらに走った。そして、大きな水たまりに足をとられた。



転びそうになりながら、なんとかもちこたえて姿勢をなおし、走り続けようとした。そのさなえの着物の帯を、追いかけてきた為助がつかんだ。

「どこへいくんや」

為助は、後ろからさなえの胴にしがみついてきた。さなえがそれを払いのけると、今度は束ねている髪をつかんだ。後ろ向きにのめるように、さなえは為助の胸に引き寄せられた。

為助は背中から、さなえを抱きすくめた。濡れた着物が重なりあって、グジュと音がした。為助の胸の中で、さなえはもがいた。

「離して、離して」

さなえは叫んだが、大きな泣き声のように聞こえた。

為助はさなえの耳に口を近づけて、つぶやいた。

「さなえさんは、わいの子を産むんや。わいは、めしを食わせて大きする。わいの子でのうても。わいのしたことやからな」

さなえの体から力が抜けた。とりかえしはつかない。やり直すこともできない。

涙をぬぐって目を凝らしたが、松明の火は、もう見えなかった。

「行こう」

市右衛門は小声で男に言った。悲しげでいて、堅い響きがあった。男は進むのをためらった。

市右衛門につきそってきた男は夜目のきく、忍びの者だった。男は人の足音を聞いて、すぐに松明を消していた。二人は立ち止まって、追ってくる者の様子を窺っていた。

追ってきたのはさなえで、泣いていて、為助がさなえをとめにきたらしいと、わかった。

たとえ為助がいなくても、さなえのために道を戻る気持ちは市右衛門にはなかった。松尾山へ行かなければならなかった。

竹中丹後守の命令に従うためではなく、自分以外の誰にもできない、特別な役目を果たすのだという、ある優越感に似たたかぶりが市右衛門を駆り立てていた。

だからこそ、さなえを自由にして、為助とどこか好きな所へ行かせてやろうという気になった。ふたりのことは半年ほど前、足軽達が噂しているのを、偶然立ち聞きして知った。

すぐに人を使って、さなえの行動を見張らせ、確かめた。

市右衛門は、殺した住職の悪霊が、自分への仕返しのために、さなえを為助のもとへ導いたのだろうと思った。自分を裏切ったさなえを、正気とは思いたくなかった。若いさなえが可愛かった。

それでも、さなえのほうからその罪を詫びたり、屋敷を出ていこうとしたなら、やはりさなえを許すことはできないような気がしていた。

住職と同じように、妻であるさなえを殺してしまうかもしれないと思った。そういう自分を、為助を、悪霊を、憎んだ。さなえは憎めなかった。

さなえの口から、為助のことを聞きたくなかった。市右衛門はさなえに、隙をみせないようにした。

死んだ住職の妻のことを、市右衛門はきれいに、大事に思いすぎていた。堅い雪の塊のようなその思いは、さなえといることで溶けていこうとしていた。もう少しで、素直な気持ちを、さらけだすことができるような気がしていた。

一人暮らしが長く続いたために、それに慣れてしまって、さなえと、うまく接することができないでいた。さなえに寂しい思いをさせていると、わかっていた。為助とのことを知ってからも、さなえを離縁しようとは、思わなかった。

だが別れる時はきた。市右衛門は死ぬつもりでいた。

「急ごう」

市右衛門は男を先に歩かせた。さなえが子を宿していることは、知らなかった。